

国際収支統計の見直しで貿易赤字が1兆円以上縮小？ 発表日：2014年2月21日（金）
～2014年1月分より国際収支統計は新基準に～第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 高橋 大輝
TEL：03-5221-4524

(要旨)

○2014年1月分（3月10日公表予定）より国際収支統計が見直される。これにより、貿易赤字が表面上縮小する可能性が高い。2013年の改訂額は、1.8兆円にも上る見込みだ。あくまで、国際収支統計内の項目組み替えによるものであり、経常収支額に変化はない。ただし、見かけ上の貿易赤字縮小額が大きいため、統計利用の際には十分注意が必要だ。

○国際収支統計の見直しに伴い、貿易収支とサービス収支の間で項目が組み替えられる。2013年に赤字を計上している加工用財貨、財貨の修理が貿易収支からサービス収支に、黒字を計上している仲介貿易がサービス収支から貿易収支へ組み替えられる。その結果、テクニカルな要因であるが、見た目上国際収支統計における貿易赤字額が縮小する。

○新統計移行に伴い年次改訂制度が導入され、再投資収益の計上時期が見直される。年次改訂は2014年以降の統計が対象だが、新基準に則って試算を行うと過去には1兆円を超える黒字方向への乖離もある。2013年10-12月期の経常収支（季節調整値）は四半期ベースで初めて経常赤字となったが、新基準に則れば黒字を維持していた可能性がある。

○2014年1月分より国際収支統計が見直される

2014年1月分（3月10日公表予定）より国際収支統計が見直される。これにより、貿易赤字が表面上縮小する可能性が高い。2013年の改訂額は、1.8兆円にも上る見込みだ。あくまで、国際収支統計内の項目組み替えによるものであり、経常収支額に変化はない。ただし、見かけ上の貿易赤字縮小額が大きいため、統計利用の際には十分注意が必要だ。

現行の国際収支統計は、IMFが1993年に公表した国際収支マニュアル第5版（BPM5）に基づいて作成が行われている。しかし、2014年1月分（3月公表）から、2008年公表の国際収支マニュアル第6版（BPM6）に準拠した統計へ見直しが行われる。多くの改訂があるが、ここでは①主要項目の組換えと②年次改訂制度の導入に注目してみたい。

①主要項目の組み換え

前述した見直しに伴い、貿易収支とサービス収支の間で項目が組み替えられる（資料1）。現行統計で貿易収支は、一般商品、加工用財貨、財貨の修理、輸送手段の港湾調達財貨、非貨幣用金といった項目で構成されている。このうち、加工用財貨、財貨の修理がサービス収支へ組み替えられる。一方で、仲介貿易がサービス収支から貿易収支へと組み替えられる。

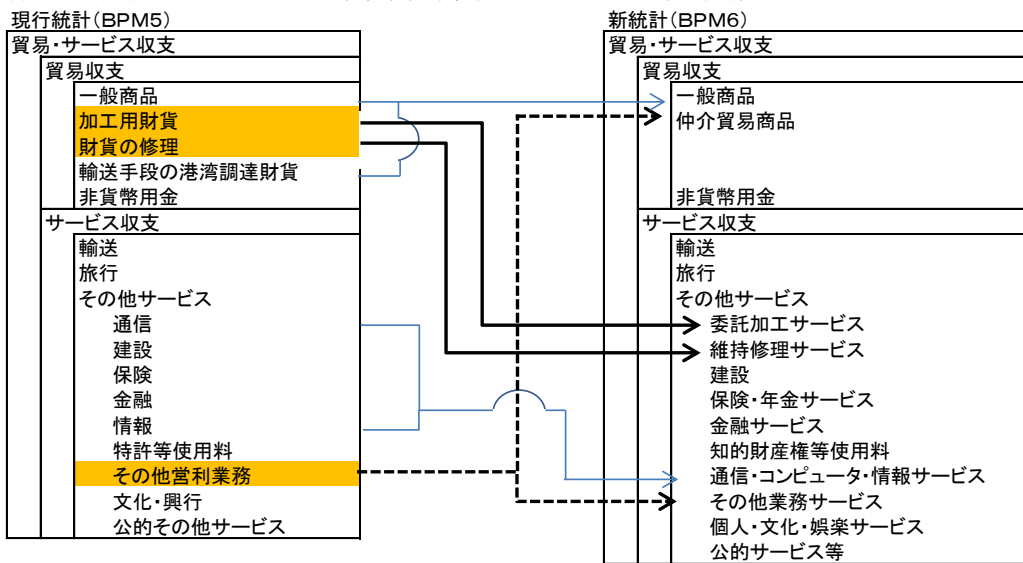
組み替えが行われる背景を整理すると、国際収支統計における貿易収支の計上時点は、居住者と非居住者の間で所有権が移転した時とされている。しかし、現行統計では、加工用財貨、財貨の修理、仲介貿易はこ

の原則の例外として扱われていた。新統計ではこれらの扱いが原則に則ったものとなる。

この原則に則ると加工や修理が行われる財貨は、通常、所有権は元の所有者にあるため、本来は貿易収支に計上すべきではない（資料2）。しかし、BPM5ではこれらの取引を例外として貿易収支に計上すべきとしていたため、現行統計では貿易収支に計上されていた。今回の見直しで準拠するBPM6では、これらの取引を加工賃や修理費の受払を行うサービス取引と整理したため、サービス収支に組み替えられることとなった。

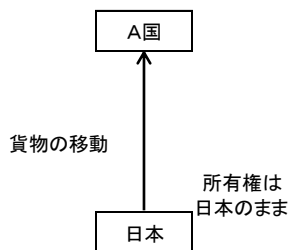
また、仲介貿易とは、本邦企業（日本の居住者）と外国企業の売買契約において、貨物を日本以外の国から別の国へと出荷する取引形態である（資料3）。仲介貿易では先ほどの取り扱いとは逆に、所有権の移転があるものの、例外として貿易収支ではなくサービス収支に計上されていた。BPM5では、仲介貿易をブローカーによる仲介サービス取引と捉えていたが、BPM6では所有権の移転を伴う売買取引と整理されたことから、貿易収支に計上されることになった。以上のようにそれぞれの計上方法の変更に伴い、組み換えが行われる。

資料1. 主要項目の組み替えと名称変更（貿易・サービス収支部分抜粋）



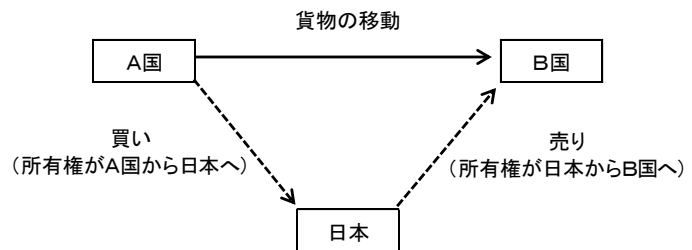
(出所) 日本銀行「国際収支関連統計の見直しについて」

資料2. 財貨の加工、修理のイメージ図



(出所) 第一生命経済研究所作成

資料3. 仲介貿易のイメージ図



(出所) 第一生命経済研究所作成

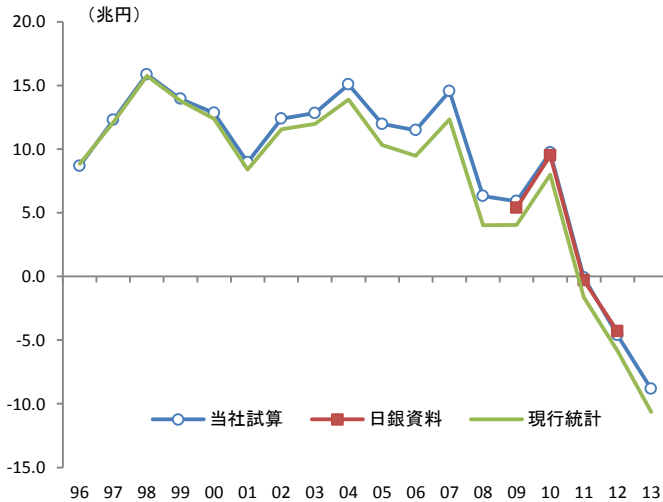
では、組み替えによって貿易収支、サービス収支にはどのような変化が起こるのだろうか。2013年の収支額をみると、加工用財貨は6,176億円の赤字、財貨の修理は421億円の赤字、仲介貿易・その他貿易関連は11,520億円の黒字となっている。単純に計算すると、6,597億円の赤字が貿易収支からサービス収支に移動

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

し、一方で11,520億円の黒字がサービス収支から貿易収支へ組み入れられることになる¹。その結果、貿易収支は1.8兆円程度改善する。貿易・サービス収支内の項目の入れ替えによる変動のため、当然経常収支、貿易・サービス収支の総額は変わらないが貿易収支はずいぶん改善する。テクニカルな要因であるが、見えた目上国際収支統計における貿易赤字額が縮小するのである。

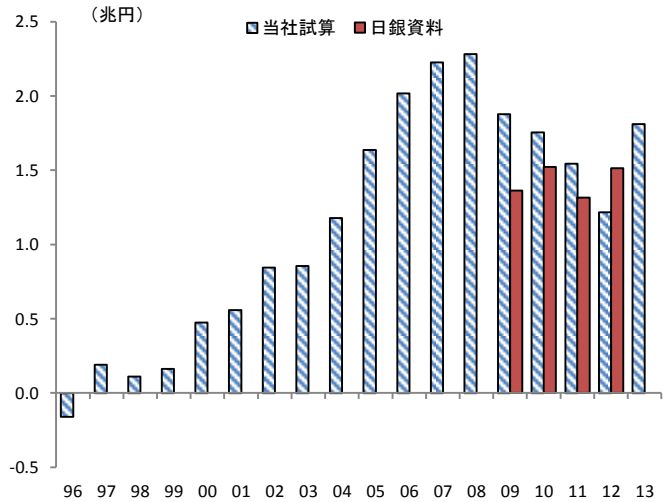
また、仲介貿易が貿易収支に組み入れられることで、国際収支統計における貿易収支は、通関統計における貿易収支と乖離して推移することになる²。それぞれの統計における貿易収支の計上範囲を整理しておく必要がある。

資料4. 新統計と現行統計における貿易収支の推移



(注) 現行統計において確認できるデータを用いて試算。
(出所) 財務省、日本銀行「国際収支統計」「国際収支関連統計の見直しについて」

資料5. 項目組み替えによる貿易収支の変動額試算



(注) 現行統計において確認できるデータを用いて試算。
(出所) 財務省、日本銀行「国際収支統計」「国際収支関連統計の見直しについて」

②年次改訂制度の導入

これまで国際収支統計は、速報の公表から2～4ヶ月後の確報の公表時においてのみ改訂していたが、新統計移行に伴い年次改訂制度が導入されることとなった。この改訂の一環として再投資収益の計上時期が見直される。再投資収益とは、直接投資先企業の内部留保分に当たる。内部留保として積み立てられたものは、正式には投資家に配分されていない。しかし、国際収支統計においては、実際に投資家に再配分された後に直ちに再投資されたものとみなし、直接投資収益に計上される。再投資収益の基礎データは企業の決算データであるため、当該年の内部留保の金額はわからない。そのため、統計上は過去の再投資収益を当該年のものとして計上している(資料6)。今回の見直しによってこの扱いが変更され、年次改訂時に収益を得た本来の時期に計上し直される。

速報値では過去の決算書を元に数値が作られることになる。つまり、現在計上されている再投資収益は過去の値であるため、本来の時期の再投資収益と乖離がある。これが年次改訂において、正しい時期に修正される。再投資収益の計上時期のズレによる乖離を試算してみると³、過去には1兆円以上黒字方向へ乖離している場合もある(資料7)。2013年10-12月期の経常収支(季節調整値)は四半期ベースで初めて経常赤

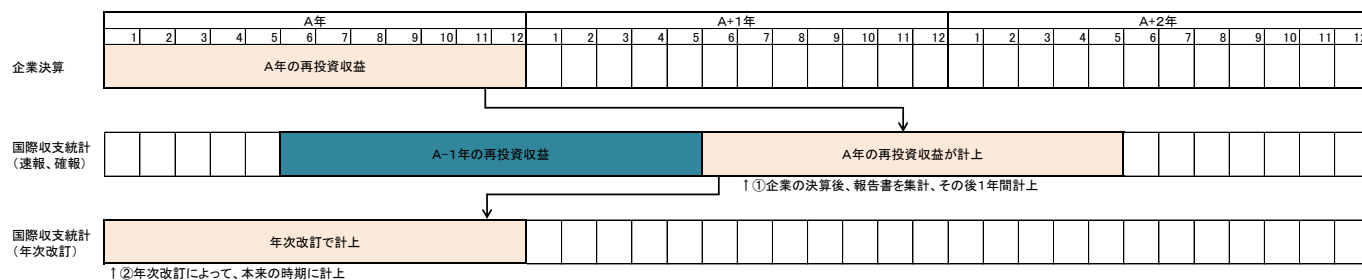
¹ サービス収支から貿易収支に組み替えられるのは「仲介貿易商品」であるが、現行統計では公表されていないため、便宜的に「仲介貿易・その他貿易関連」の数値を使用している。

² 通関統計における計上範囲は、関税境界を通過した貨物であるため、日本の通関を経由しない仲介貿易は計上されない。

³ 全ての企業の決算と集計、計上が資料6のように行われると仮定した場合。

字となったが、新基準に則れば黒字を維持していた可能性がある⁴。

資料6. 再投資収益の計上時期調整のイメージ図



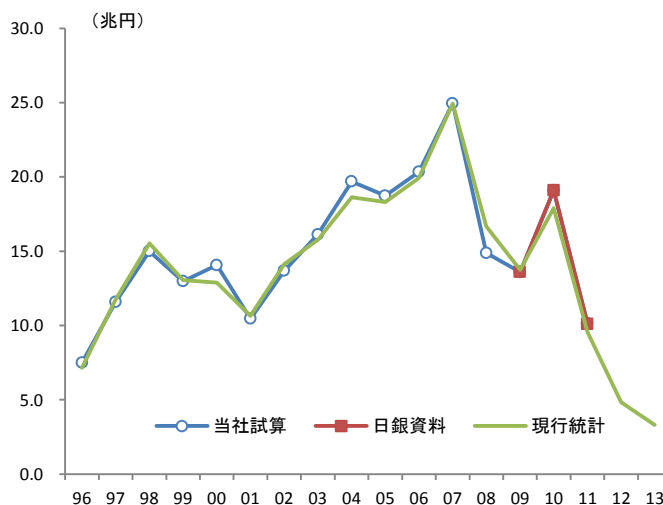
(出所) 日本銀行「国際收支関連統計の見直しについて」

資料7. 再投資収益の計上時期のズレによる乖離幅 (兆円)

(兆円)	計上された金額	本来の金額	差額
2000	▲ 0.2	1.0	1.2
2001	0.7	0.5	▲ 0.2
2002	0.8	0.4	▲ 0.5
2003	0.4	0.7	0.4
2004	0.4	1.5	1.1
2005	1.3	1.7	0.4
2006	1.6	2.1	0.4
2007	1.8	1.9	0.0
2008	2.1	0.3	▲ 1.8
2009	1.0	0.9	▲ 0.1
2010	0.4	1.6	1.2
2011	1.3	1.8	0.6
2012	1.9	?	?
2013	1.8	?	?

(出所) 日本銀行「国際收支関連統計の見直しについて」

資料8. 再投資収益の遡及改訂による変化額の試算



(注) 試算は2011年分まで

(出所) 財務省、日本銀行資料より第一生命経済研究所作成

⁴ 年次改訂が行われるのは2014年1月分から作成されるBPM6に準拠した統計であるため、2013年分は年次改訂が行われない。